

# オニグルミ



(撮影：桐原真希)

笹畑にて

## ■その微笑みの正体は？

平成20年の冬に、町の文化財に指定されている「烏帽子岩」を見に行きまされた。案内看板のそばに、見事な三角形の岩がすぐに目に入り、彫られている像の愛らしさに、思わず顔を寄せました。すると視界の端に、何やら微笑みがちらりと見え、視線を動かしてみると、そこには、岩の見学に来た人を笑顔で出迎えているような顔が枝にずらりと並んでいたのです。正体は、オニグルミという木の枝。晩秋に葉を落とし、枝と葉をつないでいた葉柄が離れ、その切り口がまるで目と口のように見えるのです。模様を作り出しているのは、かつて栄養や水分を運んでいた道管と師管の痕。春に伸びる予定の芽も、まるで帽子のように見え、どうしても人面として脳が判断してしまうようです。

## ■冬芽合唱団

落葉広葉樹の葉が落ちた痕を「冬芽」と言います。その冬芽が人の顔に見えるものを集めて絵本にした作品があります。福音館書店発行の「ふゆめがっしょうだん」、22年前に発売されたものにも関わらず、ロングセラーの人気シリーズです。もちろんオニグルミも

合唱団の一員として紹介されています。凍える季節は、花も少なく緑も控え目なので、植物を楽しむには向かないシーズンと思われがちですが、葉のない木の枝先をよくく見てみると、意外な表情に会えるかもしれません。

## ■縄文時代から食用に

オニグルミは、水気のある沢や川添いによく見られます。縄文時代の遺跡からも多数確認されていて、ドングリ類と共に当時の重要な栄養源であったことが伺えます。クルミの仲間ですが、各地に自生していますが、オニグルミの分布は地球儀上ではとても狭く、北海道から九州、そして国外では樺太のみということ、日本の固有種の分布にかなり近いと言えます。日本人にとって古くからのお付き合いがあるオニグルミ、この冬、この笑顔を探してみませんか？



オニグルミの枝先

自然観察指導員 桐原真希